

歌・ダンス・お芝居、講談、女役…、なんでもやって、芸域を広めたい。

時の人・インタビュー

小さな顔、長い首、こぼれ落ちそうな大きな目。あたりがぱっと明るくなるようなオーラはまさにスター。気さくな人柄と、舞台に対する「もっともっと」という熱い気持ちが伝わってきます。OSKトップスターとして、細い腕で引っ張り続けた桜花昇ぼるさん。退団後の活躍やこれからのことなど、お話を伺いました。桜花さんは10月21日の道頓堀川面舞台にご登場です。

(聞き手：中田真弥子)



▲昨年の「川面舞台」に登場した後輩たちのポスター。

じですね。

—OSKを退団されてからも活躍が続いているですね。

入団して22年。学校から数えたら24年間OSKに在籍していただのですが、がむしゃらにやつて、気が付いたりしないといった、いう感じでした。その間男役に命をかけてきましたから、女性としては新人なんです。すぐに肘を張つてしまったり、歩幅も大きくなってしまった。脚本もつい男役自慢で読み込んどしまつた(笑)でも、大衆演劇の竜小太郎さんと三越劇場で一緒にさせていただいたんですけど、小太郎さん、本当に色々と。それで、女性として直接ではなく一度迂回して男性の方の演技で、歌お芝居・日本舞踊・ダンスもまだ深めていきました。

優しさでは新人なんです。すぐに肘を張つてしまつたり、歩幅も大きくなつてしまつたり。優しさでは新人なんです。すぐに肘を張つてしまつたり、歩幅も大きくなつてしまつたり。優しさでは新人なんですが、小太郎さん、本当に色々と。それで、女性として直接ではなく一度迂回して男性の方の演技で、歌お芝居・日本舞踊・ダンスもまだ深めていきました。

—講談師・旭堂南櫻としての活動も新しい挑戦です。

講談は旭堂南陵師匠について勉強します。レピュートの舞台はマイクを通してが、講談は生の声。台詞の勉強にもなります。講談には難波戦記の真田幸村など大阪物が多い。真田幸村の役はOSKの時から演じ続けて10年になります。劇団の存続の危機や、自身の人生の転機などいつも役に背中を押されてきました。

私自身、東軍か西軍かで言えば西軍かな、関西の人間ですし、大阪が大好きです。(笑)



写真・OSK日本歌劇団

—退団されてからも男役での舞台も多いですね。

OSKを卒業して一番最初に出させていただいたお芝居が、西川忠志さん主演の人情活劇「ヨージカル」「蝶子と吉治郎の家」

—メイン劇場を大劇、あやめ池に移し

てから、66年ぶりの松竹座公演、自身のトップスターお披露目公演、昨

年のソロコンサートなど松竹座との縁が深い桜花さんですが。

OSKが存続の危機に立たされた時に、松竹座の方が「松竹座が故郷の劇団なのだから」と手を差し伸べてくださいました。

2004年、66年ぶりに「春のおどり」を復活させていたいた時の感動は忘れません。歴代の大先輩方がこの舞台に立ちたくさんの方が応援してくださったのだな……! と鳥肌が立ちました。そして大阪の皆さん人情に支えていただき、劇団は創立95周年を迎えてあります。道頓堀の皆さんにも本当に力をいただきました。私は子

供の頃から道頓堀の街が大好きで、引き寄せられるものがありました。それはきっとこのエンターテイメントな街のエネルギーに「アツクワク」していただいまたから、わくわくと私自身も成長してこの街に恩返しがしたのです。そしてOSKは道頓堀の名物になつてしまつですね。

でした。この時、私は道頓堀の歌劇のスター・煌光(きらめきひかる)という役でしたが、あるプロデューサーの方がこの人情喜劇を見ておられて、今年の三山ひろしさの新歌舞伎座・初座長公演に出演させていただきました。

いたくどう不思議な「縁をいだきました」と男のこじせらか、三山さんのファンの方にもとても喜んでいただきました。

(聞き手：中田真弥子)



プロフィール

桜花昇ぼる（おうかのぼる）

奈良県斑鳩町出身。OSK日本歌劇団元トップスター。1993年(平成5年)入団。入団当初から、華やかな容姿と実力で注目を集め。近鉄の支援終了から存続活動を経て、2008年松竹座公演でトップスターお披露目公演。2014年退団。

現在も歌・ダンス・演技の3拍子揃ったエンターティナーとして活躍中。また、講談師・旭堂南櫻、日本舞踊・花柳寛おう昇としての顔も持つ。

道頓堀 街づくり 情報

自分の街に誇りを。 いつの時代も「おしゃれな心斎橋」であり続けたい。

いフアサードデザインへの誘導や店名看板の大きさ・内容を規制する「景観協定」が認可されました。「景観協定」は住宅開発地などで実現されています。



▲国内外のブランドがひしめく

筋周辺に多くのホテルができるとのことで、少し人の流れも変わるかな、と期待しています。

◆ミナミの街のこれからについてはどうお考えでしょうか。

ミナミはインバウンドで盛り上がり、千日前、戎橋、道頓堀、心斎橋と全く景気も雰囲気も違いますよね。そこでそれが独立したレジャーランドのように楽しめます。

例え、心斎橋は飲食店が少ないのですが、すぐ隣が道頓堀ですから、その間にけば食の楽しみがある。

特に海外の人にとっては心斎橋と道頓堀のことはセットなんですね。街と街が連携してエリアマネジメントしていくのが大切なのですが、大きくなりすぎると中々まとまりない。

また、まとまりすぎてそれぞれの魅力が失われてしまつては仕方がない、そのバランスが難しいところですね。

◆おしゃれな街、インバウンドで盛り上がる商店街ですが、どのような取り組みをされているのでしょうか？

現在3つの基本方針にそつて事業活動を行っています。

①インバウンドへの取り組みの強化今は商店街も百貨店もインバウンドの割合が非常に高くなっています。関空からならば欲しいものだけ買つて、日帰りも可能な距離ですから。

現在はWi-Fiサービスやスマートフォンサイトの開設・括免税のカウンター、インフォメーションの設置など、買い物をしやすい環境を整えています。

▲括免税カウンター

▲着物でお出迎えのインフォメーション

▲ポップで手に取られやすいデザイン



▲若い女性向けコスメのバナー広告

◆今後の課題などは感じていらっしゃいますか？

休日などは17~18万人が心斎橋を訪れます。賑わうのはありがたいのですが、逆にお店に入るのが難しくなってしまう。ぜいたくな悩みかもしれないが、人が多すぎて歩くのがやつてしまつ。ぜいたくな悩みかもしねませんが、人が多すぎて歩くのがやつてしまつ。南北の筋の商店街だけではなくて、もう少し東西の通りにおしゃれな飲食店やショップなんかができる、回遊性ができるいいのですが。今年から来年にかけて心斎橋

▲心斎橋筋商店街振興組合 前田雅久事務局長

▲心斎橋筋商店街振興組合 前田雅久事務局長